

## 通学路の安全対策

けたら、できるだけ早く行政などのサービスにつなぐことが大変重要だが、GPSシステムや警察犬を利用した「樫原市はいかいSOSネットワーク」等の内容は。

**答** 「はいかい高齢者等家族支援サービス」でGPS端末の貸し出しを行い、未然防止や早期解決につながっており、6月1日時点で17名が利用している。「はいかいSOSネットワーク」は協力事業者にメールで捜索に協力してもらうもので、利用登録者は6月1日で78名、協力事業者は個人、公共交通機関や社会福祉法人など122である。29年度は3回捜索を実施し、うち1回は警察犬が出動したが、現在は登録者の行方不明者はいない。先日新聞報道で県内行方不明が1,109人、うち認知症もしくはその疑いが302人とあったが、本市の認知症の行方不明者はいない。認知症サポーター養成講座、広報誌、社会福祉協議会広報「いきいき」などで市民に啓発し、地域住民や事業者等と連携して認知症高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせるよう努めたい。

**問** 平成26年から通学路安全対策プログラムを策定し対策してきたが、現在の状況は。

**答** 同プログラム策定により27年度から関係機関で合同点検し、対策を検討、実施している。27年度は八木中学校ブロック（5小学校）の5カ所、28年度は大成・樫原中学校ブロック（4小学校）の30カ所、29年度は畝傍・光陽・白樫中学校ブロック（7小学校）の22カ所対策を実施した。路面標示や交差点のカラー化、ガードレール設置などが主な対策となっている。今年度は八木中学校ブロックで実施予定である。

**問** 一般の新潟女児殺害事件を受け、通学路で犯罪が起きにくい環境を整備し、不審者情報を共有して迅速なパトロールを実施することが不可欠である。通学路の見守りは民生児童委員に多大な尽力をいただいているが、学校、PTA、行政、地域全体の防犯の取り組みは。

**答** ほとんどの小学校で毎日

部団登校を行い、地域福祉推進委員やPTA、地域ボランティアが交差点に立ち、部団に付き添うボランティアや保護者もいる。小学校で全児童に防犯ブザーを配布し、4月に新入生対象に樫原警察署のサポーターによる「犯罪被害防止教室」、6月に「交通安全教室」を開催している。全13団体の青色防犯パトロール隊が、青色回転灯をつけた車で登下校の見守り等を実施している。樫原警察署による「樫原市防犯講習会」で幼稚園、小、中学校の教員が不審者対応訓練をするなど、さまざまな観点で取り組んでいる。

**問** 箕面市は全小中学校の通学路に約70メートル間隔で防犯カメラ750台を設置している。高槻市、茨木市などとも警察と協力して「通学路見守り用カメラ設置事業」を実施しているが、通学路に防犯カメラを導入する考えは。

**答** 各校門等の出入り口に防犯カメラを設置しているが、プライバシー等さまざまな課題があり、現時点で公道の設置の予定はない。集団下校やボランティア、見守り隊と連携して安全確保に努めたい。

## 防犯対策

**問** 大阪府北部地震では高槻市で小学校前の通学路のブロック塀が倒れて児童が下敷きとなったが、小中学校の施設特にブロック塀の点検内容は。

**答** 把握する限り8自治会で合計50台が設置され、見守りや防犯マップ作成等の活動とあわせて実施されている。

**答** 6月19日に幼稚園、小学校、中学校を点検し、危険なブロック塀等は確認されていないが、引き続き安全対策に万全を期したい。

**問** 平成26年度から29年度までの4年で自治会管理の防犯灯をLED化して生活道路の視環境が改善したが、本事業の結果は。

**答** 約1万5000灯のうち29年度末時点で9,990灯をLED化、新規設置も1,490灯あり、自治会管理のLED防犯灯は1万1,480灯となった。今後は一部自治会負担も発生するが、新たな補助制度で対応している。

**問** 他市町村で町内会などに防犯カメラ設置費用の一部を補助する事業があるが、本市で自主的に設置している自治会はあるか。



LED防犯灯

**答** 防犯カメラは有効なツールだが課題もある。個人情報保護の観点から、映像の開示は裁判所の命令、犯罪捜査の要請や緊急時など限られた場合のみでなければならず、要綱整備の必要がある。諸問題を整理して駅周辺など公共性の高い箇所の設置を調査・研究したい。防犯対策はマンパワーが効果的であり、今後地域と協働して推進したい。